

倉敷芸術科学大学 アクションプラン 2022-2026

ビジョン【A】	事業【B】	中期目標【C】	中期計画【D】	達成度のKPI	
1)「アート&サイエンス教育」の開発・展開	教育力の強化	論理的・理性的スキルと感性的・直感的スキルを醸成することのできる教育プログラム(A&S教育)の理念・目的・目標を策定する。	1 A&S教育の理念・目的・目標を文章化する。	・理念・目的・目標の策定 ・理念・目的・目標の公開	
			2 Basic Program と Advanced Program の関係性・位置づけを明確にする。	・DP/CPの明確化 ・カリキュラム・ツリー	
			3 A&S教育を組み入れたカリキュラム案を作成する。	・カリキュラム案	
		初年次にさまざまな経験を積むことを通じて今まで気づけなかった自己を発見することができる教育プログラム(A&S Basic Program)を開発する。	4 初年次生対象の基礎的な全学共通プログラムを開発する。	・シラバス作成 ・授業評価アンケート結果	
			5 全学共通プログラムを構築するための研修プログラムを開発する。	・研修プログラムの作成 ・FD研修会	
			知性と感性の2つの視点を通して実社会の問題を発掘し、解決していくことのできる教育プログラム(A&S Advanced Program)を開発する。	6 学生参加型プロジェクト(ビジョン2)・フィールドワーク(ビジョン3)と連携しながら総合的・発展的な教育プログラムを開発し、カリキュラム案に位置づける。	・カリキュラム案
				7 実社会の問題解決につなげることができる複数の授業科目を開講して、学生の主体的な学びを促進する。	・シラバス作成 ・授業評価アンケート結果
	研究・創作活動の推進	A&S教育を開発する研究・創作活動を通じて、個性的・先進的な大学として認知される。	8 A&S教育の基盤づくりに繋がる倉敷芸術科学大学らしい研究・創作活動を推進する。	・実施有無	
			9 A&S教育への取り組みをふまえた特色ある研究・創作活動が可能になるように環境や支援の仕組みを作る。	・実施有無	
			10 研究や創作活動において、学内での情報共有を密にし、それぞれがA&Sの視点を持って発信できるよう異分野間での共同研究・創作を支援する仕組みを作り実施する。	・実施有無	
2)学生参加型のキャンパスのビジュアル・プロジェクト	学生参加型による実践	瀬戸内海に面する丘陵地の立地を生かし、教員、職員、学生がビジュアル・プロジェクトに参加することで独創的なキャンパス空間を創造する。	11 学部の領域を超えて、初年次から全員がビジュアル・プロジェクトに参加できる体制を確立し、学生が楽しんで学べる場を提供する。	・参加者の所属学科のばらつき度 ・初年次学年と全体の学生参加率 ・体制の確立 ・学生満足度 ・大学のビジュアルの変化度	
			12 プロジェクトを実践するための5つのテーマ(自然景観、キャンパス環境、XR、創作活動、地域活性化)を設定し、推進する。	・プログラム開発数 ・プログラムへの参加率	

ビジョン【A】	事業【B】	中期目標【C】	中期計画【D】	達成度のKPI
2) 学生参加型のキャンパスのビジュアル・プロジェクト	学生参加型による実践	本学の人材、資産、立地などを活用して本学の文化力を高める。	13 大学の人材、資産、立地など既存の価値を発掘し、プリコラーージュ的に組み合わせることで本学独自の価値を創造する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、教員への浸透率 ・創作力達成度（作品発表、研究発表等の展示数）
			14 教員と学生による協調的な組織をもとに、学生を中心としたアクティブな自主参加型の体制を構築し、自立した運営形態を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加数 ・学生の自主運営
		学部を横断して学生が自由に参加できる多様なプロジェクトを用意し、そのためのシステムを構築する。	15 XR クラウド等の技術インフラを整備することで本学独自のプロジェクトを展開し、本学の先進性を発揮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・XR クラウドの検討 ・XR クラウドの導入 ・XR クラウドでの作品の展示数
			16 学内にとどまらず、ヘルスピア倉敷、加計美術館などの関連施設と連携しながらビジュアルプロジェクトを展開することにより、大学の魅力を拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度：メディアの露出度 ・学生の満足度 ・学外関連施設及び地域との連携事例数
3) 学生の活動のフィールドとしての倉敷及び瀬戸内圏	地域連携	地域を学生の学びと成長の場と捉え、学生たちが地域のイベント等に積極的に参加できる環境を整備し、地域イベントに積極的な大学として市民から認知される。	17 本学が地域イベントの活性化拠点となるよう、情報の収集と発信を行う環境を整備し体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施有無
			18 倉敷や広く瀬戸内圏を舞台とする芸術祭等のイベントにおいて、学生が地域で学ぶ意味を体感し、また地域で学びたいという意欲を向上させるよう地域と連携する。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加イベント数 ・参加学生数
		学生たちが地域の人たちと協働して課題に向き合い、地域に必要とされる大学になる。	19 学生自らによる地域における課題の発見・解決、もしくは活性化に結びつける活動ができるよう、地域の問題について学内外の人と出会い交流できる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外との対話コーディネート数
			20 地域住民、産業界、行政機関などのステークホルダーと学生たちが、地域の身近な課題について協働しながら解決策の提言や実施ができるような学びの場を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施有無
		教職員は、地域連携に関する情報を共有し、連携活動を通じて学生と地域の人々を繋ぐファシリテータになる。	21 地域連携に関して地域から大学に寄せられる情報や教職員が関与している情報を学内で共有し、全学として地域連携を推進する体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有実施の有無 ・地域連携の実現数 ・継続的な取り組みを作る
			22 学生が地域に出て自発的に学び自己を成長させることができるよう、学生の興味・関心や地域との関わりについて情報を収集し、学生指導に生かせる仕組みを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施有無

ビジョン【A】	事業【B】	中期目標【C】	中期計画【D】	達成度の KPI
3) 学生の活動のフィールドとしての倉敷及び瀬戸内圏			23 学生が自ら企画し行政や地域の人たちと交渉しながら地域の課題解決や活性化等に取り組めるよう、教職員は、地域の方々に理解と協力を求め、同時に学生が行う活動をサポートする体制を作る。	・関わった教員数
4) 学生一人ひとりに対応した学生支援	アカデミック・アドバイジング体制の構築	入学時から在学中、卒業・就職までの学生生活の中で生じる学生の諸問題を包括的に支援する。	24 教育開発センター、学生支援センター、健康支援センターが連携して共有する情報に基づいて有機的に活動できるシステムを構築する。	・学生ポートフォリオに含める項目の選定 ・データ収集の方針 ・データの集約と分析の方法
	学修支援の充実	学修成果を把握し可視化することによって、教育の質を保証するとともに、学生が自己の成長を確認できるようにする。	25 アセスメントプランに基づいた PDCA サイクルを確立する。	・アセスメントプランの確定 ・データ収集 ・アセスメントプランに基づく分析 ・分析結果のフィードバック
			26 ICT を利用して学生が自分の学修進捗状況を確認できるシステムを構築する。	・システムの構想と選定 ・一部の学科で試行 ・学生へのヒアリング
			27 教育 DX 推進計画を策定し、運用する。	・教育 DX 計画の策定 ・大学ホームページでの公開
			28 LMS を中心に教育のデジタル化ならびに高度化を図る。	・種々の LMS の機能の確認 ・LMS の選定・導入 ・一部の学科で試行
	学生生活支援の充実	学生が大学生活におけるあらゆる不安を解消することで、充実した学生生活を送ることができるよう支援する。	29 大学生活におけるあらゆる場面での仲間づくりを支援し、居心地の良い居場所を提供することで、退学率を減少させる。	・総退学率
			30 新入生オリエンテーションなどの各種イベントを学生が立案し実施することにより、新入生と在校生や、在校生同士の相互扶助の関係を構築する。	・イベントに関与する学生数
			31 大学生活におけるあらゆる不安を早期に解消できるよう、オンラインの相談窓口など学生のニーズにあった全学的な相談体制を構築し、快適な学生生活を送ることができる環境をつくる。	・相談者件数（オンライン、対面、電話） ・カウンセラー相談者数 ・学生アンケート
			32 学生のニーズにあった相談窓口を活用して、学生の経済的な悩みを早期に検出し、適切なアドバイスを行うことで、経済的な理由での退学率を減少させる。	・経済的理由での退学率（経済的理由+学費未納）

ビジョン【A】	事業【B】	中期目標【C】	中期計画【D】	達成度の KPI
4) 学生一人ひとりに対応した学生支援	学生生活支援の充実		33 学生を経済的にサポートするため、TA や SA に加え、学内ワークスタディなど学内雇用の場を創出する。	・TA、SA、ワークスタディ雇用者数
		学友会が学生全員の学生生活の質の向上に寄与する組織となる。	34 学友会組織を見直し、運用を簡略化かつ明確化するとともに、教職員によるサポート体制を整備する。	
	障がい学生支援の充実	障がい学生が不安なく大学生活を送ることができるよう、全学的な支援体制を充実する。	35 全ての教職員・学生が共生社会を目指した障がい学生支援について理解するために、研修会を開催し、障がい学生支援教育を行う。	・研修会開催回数、参加者数 ・障がい学生支援教育開催数、参加者数
			36 障がい学生の修学支援を充実させるために、キャンパス環境の整備や学内支援者を育成する体制を構築する。	・実施有無 ・情報発信数 ・留学生の志願者数 ・留学生の入学者数
	留学生支援の充実	留学生の入学から修了・卒業および就職までの一貫した支援体制を確立する。	37 留学生の在学中および卒業後の情報を一元化して教職員で共有するとともに、有効活用するために学外への発信を強化する。	・実施有無 ・情報発信数 ・留学生の志願者数 ・留学生の入学者数
			38 留学生の日本語能力を継続的に向上させるため、必要な科目を配置し、試験や課外活動などを活用する体制を整備する。	・実施有無 ・JLPT の受験率、合格率 ・J-test の受験率、合格率
			39 留学生と日本人学生および地域の人々との交流を通して、留学生が日本文化を理解し、友好関係を構築する。	・イベント数
			40 留学生が外部奨学金を獲得する機会を増やす体制を整える。	・奨学金の採択率
			41 キャリア形成過程を可視化することで、留学生が自信を持って就職活動できるようにし、また希望する全ての留学生が日本で就職できるようにする。	・就職ガイダンスの出席率 ・内定率 ・就職率
	キャリア支援の充実	学生の個々に応じたキャリア支援を行うことで、学生が希望の進路に進めるようにする。	42 低学年次から段階的で体系的なキャリア構築支援を行い、学生の各学年次に応じた就職支援により、満足度の高い進路を実現する。	・内定率 ・ガイダンス出席者アンケート満足率 ・ガイダンス参加率
			43 外部のキャリアサポートを利用することで、進路に対する学生の満足度を向上する。	・外部サポート利用率 ・新規外部サポート利用のイベント実施回数 ・卒業時内定企業満足度
		学生が大学生活において経験した学修や活動について確認できるプラットフォームを整備することで、自信を持って就職活動ができるようにする。	44 学生が成長を実感できるためのポートフォリオの導入を見据えた整備を行う。	・ポートフォリオへの移行データの項目把握
	45 就職活動における ICT の積極的な利用により、学生の物理的障壁を無くす。	・リモート採用試験へのスキルアップ ・ガイダンス参加率		

ビジョン【A】	事業【B】	中期目標【C】	中期計画【D】	達成度の KPI
4) 学生一人ひとりに対応した学生支援		学生が卒業後も帰属意識を保持し、卒業生として本学に関わり続けることができる体制を確立する。	46 同窓会組織を見直し、卒業生との連携を深めるための体制を整備する。	
5) 情報発信機能の強化によるブランディング	ブランディングと広報・PR活動の強化	社会に有用で良質なコンテンツを発掘・開発し、積極的な情報発信やメディア・リレーションズを通じて、本学の認知度向上と理解促進を図るとともに、オンリーワンのブランド定着を図る。	47 学生や教職員がブランディング・広報活動に参加できるイベントやプログラムを開発・実践する。	・イベント、プログラム数 ・1件あたりの参加者数
			48 教育、研究・創作活動から生み出される様々な資産や各教員が持つ専門性、学生の様々な活動や大学が所有する資産の有効活用等を通じて、有益で社会が求めるコンテンツを発掘・開発する。	・コンテンツ製作数
			49 オウンドメディアを中心とした積極的な情報発信を行う。	・ブログメディア数 ・HPPV
			50 プレスリリースや企画提案機能を強化するとともに、情報交換などを通じてメディアとの関係を強化する。	・プレスリリース ・メディア取材 ・掲載・放映数
		効果的かつ継続的な広報・PR・ブランディング等の活動を実施するための体制を整備するとともに、活動を円滑に進めるために必要なリテラシーの向上を図る。	51 学長直轄の全学組織を整備し、大学ブランディングに関わる機能強化を図る。	・実施有無
			52 大学内外で活用するブランディングにかかるルールや CI (Corporate Identity) の統一を図る。また、ニュースレターやパンフレット、ウェブサイトやブログなど社会とのタッチポイントとなるツールの開発・運用を一元化し、統一感のある広報活動を行う。	・HPPV ・資料請求
			53 組織間、教職員間のコミュニケーションを活性化し、組織を超えたコラボレーションの実現や A&S 教育の実践など、「倉敷芸術科学大学ビジョン 2031」の実現に向けた教職員の理解や活動を促進するインターナルコミュニケーションを強化する。	・説明会や理解促進施策の実施回数 ・授業や活動等への浸透度 ・各種プログラムへの参加率
			54 効果的なブランディング活動の実施に向け、教員や学生のメディアリテラシーや広報リテラシーを向上するとともに、効果的で継続的な情報発信の仕組みを構築する。	・プログラムへの参加率
入学者選抜の改革	「倉敷芸術科学大学ビジョン 2031」に基づき改定されたアドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を実施する。	55 「倉敷芸術科学大学ビジョン 2031」に基づき改定されたアドミッション・ポリシーに基づき、学部学科・入学者選抜区分毎に設定している「求める学生像」を見直す。	・大学ポートレート ・入試要項	
		56 アドミッション・ポリシーと「求める学生像」に基づいた、ブランディングや広報戦略に結び付く新たな入学者選抜方法を策定し、入学定員の充足を維持する。	・HPPV ・資料請求 ・OC参加者 ・受験者数	

ビジョン【A】	事業【B】	中期目標【C】	中期計画【D】	達成度の KPI
6)「学生主体の大学づくり」のための大学運営	全学教学マネジメント体制の構築	「倉敷芸術科学大学ビジョン 2031」の観点から現状の教育組織・事務組織を見直すとともに、3つのポリシーを検証・改定し、全学教学マネジメント体制を構築する。	57 「倉敷芸術科学大学ビジョン 2031」に基づき 3 つのポリシーを検証・改定するとともに、アセスメントプランとの整合性を検証し、教学面における PDCA サイクルを確立する。	・ 3 つのポリシーの検証・改定
			58 インターナルコミュニケーションを促進し、教育組織・事務組織におけるセクショナリズムを打破するため教育組織・センター・事務組織を見直し、学生主体の大学としての機能を果たすための協働体制を構築する。	・ 改組（教育組織、教員組織、センター組織、事務組織）
	内部質保証	内部質保証方針を明確にし、それを実践するために、PDCA サイクルと学内の IR 体制を確立する。	59 内部質保証方針を定めるとともに、現在の内部質保証体制を検証し、プロセスを明確にする。	
			60 学内の各種データを整理し、学内における IR 機能の向上を図る。	・ データカタログ
	経営基盤の安定化	安定的な収入の確保を目指すとともに、財源の効率的な活用を通じて、財政基盤を強化する。	61 定員充足による安定的な学納金収入を確保するとともに、科研費、受託研究をはじめとする外部資金の獲得増加を目指す。	・ 収容定員充足率 ・ 寄付金比率 ・ 科研費採択率 ・ 補助金比率
			62 現在の財務状況を把握するとともに、中期財務計画を策定し、今後の財務改善策を策定する。	・ 人件費比率 ・ 教員数 ・ ST 比 ・ 職員数
63 限られた財源を有効に活用するために、予算策定方針を明確にし、学長裁量経費をはじめとする新たな枠組みを作り、重点項目への確実な配分を行う。			・ 教育研究経費比率 ・ 人件費比率	